

令和7年度(2025年度)健康くまもと21推進会議 第1回歯科保健部会議事録	
開催日時	令和7年(2025年)8月22日(金)14:00~16:00
開催場所	市役所 10階会議室 ※台風接近のためハイブリッド開催
出席者	熊本大学大学院生命科学研究部歯科口腔外科学講座:教授 中山秀樹氏【部会長】 熊本市歯科医師会:会長 渡辺猛士氏 熊本市薬剤師会:理事 米村和広氏 熊本県看護協会:副会長 島田美樹子氏 熊本県栄養士会:副会長 石橋素子氏 熊本県歯科衛生士会:熊本市支部 支部長 佐藤成美氏 熊本市歯科技工士会:専務 田上敬祐氏 熊本市保育園連盟:副理事長 岩男慎治氏 熊本市私立幼稚園・認定こども園協会:帯山幼稚園 園長 吉田精華氏 熊本市小学校校長会:熊本市立春日小学校校長 藤高ちよ氏 熊本市食生活改善推進員協議会:会長 村田礼子氏 熊本市8020健康づくりの会:会長 巻章子氏 健康まちづくりを推進する西区の代表:古川直枝氏
事務局	健康福祉部:石元部長 健康づくり推進課:西尾副課長、迫主幹 口腔保健支援センター:山川審議員、江頭技術参事
議題	(1) 各団体及び行政の歯科保健に関する令和6年度の実施状況及び令和7年度の実施予定について…資料1 (2) 各団体及び行政のアクションプランの進捗状況確認と評価について…資料2 (3) こどものむし歯予防の推進に向けた協議(啓発リーフレットの改訂、フッ化物洗口)について …資料3、資料4
配付資料	・次第 ・令和7年度健康くまもと21推進会議歯科保健部会委員名簿 ・令和7年度健康くまもと21推進会議歯科保健部会庁内推進委員名簿 ・資料1 第4次熊本市歯科保健基本計画(第3次健康くまもと21 第7章) 令和6年度の実施状況及び令和7年度実施予定について ・資料2 第4次熊本市歯科保健基本計画アクションプラン(第1期)の進捗状況(自己評価) ・資料3 歯っぴー39リーフレット(現行と改定案) ・資料4 フッ化物洗口について ・参考資料 第4次熊本市歯科保健基本計画アクションプラン第1期(完成版) ・その他資料 市民健口講座チラシ

1 開会

役員交代等で今年度から新たに委員になった方の紹介

挨拶 健康福祉部 石元部長

2 内容

議題1 各団体及び行政の歯科保健に関する令和6年度の実施状況及び令和7年度の実施予定について(資料1)

事務局からの説明

- ・基本計画と歯科保健の着実な推進のために定めたアクションプランについて改めて説明
- ・R5の幼児のむし歯が政令市ワースト脱却したことを報告
- ・基本計画方針Ⅰ～Ⅲに基づく行政と団体の令和6年度実施、令和7年度実施予定を抜粋して説明

【中山部会長】

実施状況や今後の方向性に関するご意見、ご自身の実施の補足説明等はないか。

【県歯科衛生士会 佐藤委員】

フッ化物塗布について(P6)。自分の感覚ではもっと塗布を受けている人が多い印象だが、思ったより数字が少ない。4回以上だからこの数字なのか。

【事務局】

幼児健診で問診表を確認すると、塗布を経験しているお子さんは増えている。やはり4回以上というのは、ハードルがあるのだと思う。

【県歯科衛生士会 佐藤委員】

この数字よりも塗布券を使っている方は多いイメージであることを伝えたかった。

【健まち西区代表 古川委員】

自治協議会でフッ化物洗口や特定健診などの健康づくりを進めている。後期高齢者歯科口腔健診は毎年案内が届くと思っている方も多く、初回の案内を見逃した方が受診機会を逃すということがある。もっとよい周知方法があればと思う。

【事務局】

後期高齢は広域連合が所管しており、話す機会があれば伝えていきたい。

【8020健康づくりの会 巻委員】

令和6年度は歯たちの健診に力を入れて啓発した(P10)。全体啓発数は会で作ったリーフレット(妊娠期～高齢期までの内容を盛り込んだリーフレット)を配布した数である。

また、イベントで毎回配付しているリーフレットだが、市民の目に留まり養成講座の受講に繋がった例もある。地道な努力が新たな会員獲得につながった。会員増加も夢ではないが、高齢化が進んでいるため現会員が退会することもあり、入会と退会の数が競り合っている状況である。

【市歯科医師会 渡辺委員】

歯と口の健康週間事業期間における無料歯科健診について(P20)。市内の会員歯科医院であれ

ばどこでも受けてもらえるようにしているが、受診されたのは28人しかいなかった。今後は広報の方法を考えたい。

議題1については以上。

議題2 各団体及び行政のアクションプランの進捗状況確認と評価について（資料2）

事務局からの説明

- ・アクションプランの自己評価（4段階◎・○・△・－）について説明
- ・R6の自己評価について、98個中◎が54個、○が24個あり、ほとんどの団体がそれぞれ掲げた取組を実践していただいた結果となったことを報告
- ・取り組めたこと、取組が足りなかったことなどを抜粋して説明
- ・アクションプランの自己評価を毎年実施していただきたいことを説明

【中山部会長】

アクションプランの自己評価に関するご意見、お気づきの点などないか。

【保育園連盟 岩男委員】

保育園連盟の園長会が年10回ほどあるので、今年度もフッ化物洗口の説明をお願いしたい。実施率が57%ということだが自分の感覚では半分以下の感覚である。熊本市から洗口液を提供してもらえると聞いているが、どのような手続きになるのか。

【事務局】

年度末に次年度のフッ化物洗口について、保育幼稚園課を通して各施設へ周知を行っている。そこで参加するご意思を表明していただくと、物品の提供等を行う。

【保育園連盟 岩男委員】

それは年度途中でいいのか。

【事務局】

可能である。

【保育園連盟 岩男委員】

承知した。園長会で周知する。

【中山部会長】

年度途中でフッ化物洗口の開始は可能ということなので、ぜひ、周知のほどよろしくをお願いしたい。薬剤師会は「歯科医師会からの在宅訪問歯科診療の資料を各薬局で配付」とのことだが、これに対するレスポンスはいかがか。

【市薬剤師会 米村委員】

興味を持った方にはお持ち帰りいただいている。

【中山部会長】

看護協会の「訪問看護の際に口腔ケアを実施し必要に応じて訪問歯科診療につなげる」についてはいかがか。

【県看護協会 島田委員】

これは県看護協会が運営する訪問看護ステーションでの実績である。歯科医師からも患者の連絡がある。訪問看護の中で主治医とも連携し、口腔ケアを実施して必要に応じて訪問歯科診療にっなげている。

【市歯科医師会 渡辺委員】

現場からダイレクトに口腔ケアが必要などがあるとお声掛けいただくことがある。

【県栄養士会 石橋委員】

令和6年度までは歯科保健を意識して計画を立てていなかった。令和7年度から歯科保健に関連したことをしていきたい。歯科の周知についてはできるのでお声掛けしてほしい。

また、昨年度のこの部会において、咀嚼力が下がっていることも多いとの話が出たので、その改善に向けた資料を作成しているところである。

【中山部会長】

口腔機能の低下が言われているのでそのような活動に感謝する。

【県栄養士会 石橋委員】

資料には噛むメニューも盛り込んでいる。

【市歯科医師会 渡辺委員】

摂食嚥下については言語聴覚士に協力してもらうことが多い。初期のオーラルフレイルの段階においては介護予防の一環として協力している。また、リハビリメニューはもちろん大切だが、人と関わる、笑う、歌うということも啓発している。独りしていると口周りの機能が低下するので、集まって関わるのが大事と思っている。

【8020健康づくりの会 巻委員】

噛む力が大事ということで企業と一緒に咀嚼ガムを使用してサークル等で啓発している。リーフレットだけでなく、ガムを用いた啓発をしている。色が見えるから反応がいい。

【健まち西区代表 古川委員】

その話を受けて地域の運動会でもやってみた。高齢者はそれなりだったが、10代以下のこどもの噛む力がすごく弱いと感じ驚いた。

【私立幼稚園・認定こども園協会 吉田委員】

食べ物で喉を詰まらせるなどの危険性から食べ物を柔らかくしたり小さくしたり、噛まなくてよいようなものになってきている。麺類なども安易に出す家庭もある。やはり噛む癖をつけておかないと顎が成長しないし、咀嚼能力も高まらない。

【小学校校長会 藤高委員】

「噛むこと」の重要性を保健計画に位置づけ、保健指導にも取り入れている。また、「いい歯の日」などに合わせて給食のメニューに噛むメニューを取り入れ、しっかり噛むことも伝えている。こどもたちに少しずつ身についていけるように取り組んでいる。

【食生活改善推進員協議会 村田委員】

子育てサークルなどでおやつの作り方や時間を決めて食べることなどの啓発はしているが、咀嚼力については今のところ啓発できていない。

議題2については以上。

議題3① こどものむし歯予防の推進に向けた協議（啓発リーフレットの改訂）について（資料3）

事務局からの説明

- ・「こどものむし歯有病率は政令市ワーストを脱却したものの、更なるむし歯予防の啓発が必要である。そこで歯科保健部会で作成した歯っぴー39チャレンジリーフレットの情報を更新したい」ことを説明
- ・行政側の改訂案（見やすくするためのレイアウト変更、フッ化物塗布券の追加、歯磨剤量の追加など）を説明
- ・「皆様からいただいたご意見を反映したものを、後日、議事録確認依頼時に一緒に送付させていただき、ご承認いただく形を考えている」ことを説明

【中山部会長】

文字が減って見やすくなったが、歯っぴー39 チャレンジ「I」などの番号は残しておいたほうが分かりやすいと思うが、いかがか。

【事務局】

どこから見てもいいように番号を外したが、読みやすさの観点で番号を付与する場合はその順番も含めてご意見いただきたい。

【中山部会長】

現行はごちゃごちゃしている。文字は少ないほうが拒否感は減る。

【市歯科技工士会 田上委員】

何を訴えたいのかが分からない。この情報がほしいと思っている方には良いと思うが、情報量が多いので、手に取って「読もうかな」と思ってもらえないかもしれない。内容を減らしてはどうか。①歯みがき、②フッ化物というように2つに絞るなど。表紙もこれだけでは一般の方は分からない。表紙に「歯みがき」「フッ化物」とあったほうが目に留まるのではないだろうか。

【小学校校長会 藤高委員】

言葉を少なくして伝わるのかと思う部分がある。例えば、むし歯菌を移さないようにということが、この絵のみで想像できるか心配である。田上委員のご意見のように表紙に「こういう情報を提供します」と分かるような内容を書いたほうがよい。糖分の摂取回数などは小さいお子さんのむし歯予防のために大事な情報だと思う。「かじりとる練習」というのは文字だけで想像できるか心配である。

【中山部会長】

配付する場所はどこか。

【事務局】

現在、小児科や幼児健診などで配付している。

【市歯科医師会 渡辺委員】

現行の「★こどもに関わる家族が口の中をきれいに保ちましょう」は残しておいたがよい。こどもに

かかわる大人の口の中をきれいにしておくと、こどもはむし歯になりにくい、というエビデンスもある。

【中山部会長】

確かにむし歯菌がいて赤ちゃんが泣いている絵があるのは印象に残る。

【県歯科衛生士会 佐藤委員】

歯が3mmほど生えてきたら歯みがきを始めましょうといった内容が盛り込まれ、指導する側としては分かりやすくなった。ぱっと手に取ってみていただくには文字が多いかもしれないが、説明の時間が足りないときに補完してくれる。

量がプラスになって申し訳ないが、「フッ化物塗布を受けることでかかりつけ歯科医をもつことになげる」というのが目標にあったと思うので、この重要性について追加してはどうか。

また、「フッ化物健口」のフレーズが一番前にあるとうれしい。

説明する側（専門職）からだとこれくらいあっていいと思うが、一般の方の認識は違うので「そういう意見（田上委員などのご意見）もあるのだ」と思った。

【健まち西区代表 古川委員】

専門ではないので内容は分からないが、赤ちゃん訪問（8か月頃）のときにこれをもっていくとよいのではないかと思う。

【中山部会長】

その方々に見ていただくような内容にするといいだろう。

【保育園連盟 岩男委員】

誰を対象に作られたものか。配付場所なども決まっているのだろうが、連盟としてはデータをもらえたら保護者に配付も可能である。しっかり活用したいので送っていただきたい。

【県栄養士会 石橋委員】

チラシは用紙として配るだけなのか。データがあればいただきたい。市のホームページにデータはあるか。場所が分かれば栄養士会が一般の人にデータで見せることができるので、その場所を教えてください。

【事務局】

データの場所は後日お伝えする。

【中山部会長】

今のご意見を勘案して再度事務局からご提案いただき、アイデア等あれば引き続きお願いしたい。

議題3（啓発リーフレットの改訂）については以上。

議題3② こどものむし歯予防の推進に向けた協議（フッ化物洗口）について（資料4）

事務局からの説明

- ・小学校のフッ化物洗口について、学年拡大時の課題を整理するために、令和7年度は3年生が1クラスの小規模校で3年生も一部実施することに決定したことを報告
- ・庁内ワーキングにおいても、洗口がスムーズにできるよう児童や教員、受託者向けの動画を作

成することを協議したことを報告

・保育所等のフッ化物洗口について、実施施設数を増やすための取組として週2回法（450ppm）を今後検討することを報告

【中山部会長】

週2回法の提案があった。岩男委員いかがか。

【保育園連盟 岩男委員】

週2回になることで実施しやすくなることは間違いない。ただ、250ppmから450ppmになることのデメリットがあれば、躊躇する施設もあると思う。それに対し専門家から「心配いらない」と説明してほしい。また、フッ化物洗口をやることで結果は確実に出ているが、それが実施していない施設に伝わっていない。園長会等で数字をもって説明してもらえれば、取り組む園が増えると思う。回数を減らすことは効果的であると考える。

【事務局】

むし歯が減るという結果を出すのは、1年間（年中児の1年間）の実施では難しい。小学生になったときに「むし歯が増えていない」ということが、結果として数字であらわれてくるのではないかと考えている。また、450ppmの懸念については、確実に先生方に量をはかっていただいてこどもたちに実施していただくので、事故が起こるという心配はなく、また幼児が使うのは5mLであり、仮に間違えて飲み込んでも為害性はないので、心配する必要はない。

【保育園連盟 岩男委員】

承知した。間違いなく飲み込む子はいるが、健康被害がないのであれば保護者に説明しやすい。結果的にむし歯が減るのであれば喜ばれる。やっていくうちに慣れていくと聞いている。最近人手不足なので、踏み切れない施設もあった。週2回の実施でいいなら取り組む施設があるかもしれない。理事会で提案してみたいと思う。

【市歯科医師会 渡辺委員】

週5回（250ppm）と週2回（450ppm）があるが、低濃度で頻回のほうがむし歯予防の効果は高いので、選択できるようにしていただきたい。

【私立幼稚園・認定こども園協会 吉田委員】

幼稚園でもフッ化物洗口を実施している園があるが、まだ広く普及しているとは言えない。回数が出ているが、回数は少ないほうが先生の負担は少ない。週5回となると時間をとられるのでやめておこうかなと思う園もあると思う。幼稚園では遊びを通して教育しており、教育のほうに時間を確保したいというのがある。回数を減らすことで導入しやすくなる可能性はあるが、頻回にしたほうが効果があるということで、各園としても悩むところかもしれない。

【中山部会長】

取り掛かりとしては週2回のほうがしやすいか。

【市歯科医師会 渡辺委員】

週2回のほうが取り掛かりやすいと思う。ルーチンで気にせずされるなら週5回のほうがよいと思う。

【中山部会長】

そのよさを実感されると週5回のほうがいいのかとなるかもしれない。先生のご負担が少ない週2回

を導入し、理解を得てから週5回で実施するというのがよいかもしれない。

【県歯科衛生士会 佐藤委員】

孫が通っている幼稚園ではフッ化物洗口を自分たちで行っている。こどもたちも習慣となっており「先生、フッ化物洗口、今日してないよね」といって準備を手伝ってくれるとの話も聞いている。もちろん先生方が見守りを行っている。先生の感覚もちがうかもしれないが、毎日の習慣として実施できるようにしているのがすごいと思う。

【私立幼稚園・認定こども園協会 吉田委員】

続けていけば、こどもたちは覚えていくのも早い。最初の取り掛かりが難しい。

【市歯科技工士会 田上委員】

歯がなくなって困っているという話をよく聞く。遊びや教育の時間も大切だが、歯の健康や食育にもシフトして目を向けていただきたい。

【県歯科衛生士会 佐藤委員】

フッ化物はこどもだけでなく大人にも効果がある（根面う蝕など）。また、3年生でフッ化物洗口がないことを残念に思っている子もいる。現場は大変だと思うが、早く全体に広がってほしいと思う。

【市歯科医師会 渡辺委員】

3年生ではやっと何本かの永久歯がフッ化物洗口の影響を受けるので、ぜひとも学年拡大をしていただきたい。

【健まち西区代表 古川委員】

8020推進員としてフッ化物洗口をしているが、去年、まだ3年生への拡大が決まっていなときに、学校との打合せで「3年生まで対応できる人員は整っています」という話をしたところ、学校は「そんな話が来ているのですか」と驚かれた。こちらはしたい気持ちがあるが先生側にはその認識がない。学校の先生にもアピールしてほしい。

【市歯科技工士会 田上委員】

検証するところまできたが、3年生が1クラスのところでの検証なので、もっと大きい学校で検証したほうが課題は出てくるのではないだろうか。

【事務局】

学校には学校の事情があり、先生方もとても忙しい。取り掛かりがどんな方法にしても始めてみないと分からない。先生方がお忙しいことを理解した上で、始められるところから始め、どんな方法なら続けられるかを探るために小規模校からと考えている。人員を増やせばよいのかとなるとそれも難しい。まずはやってみて「小規模校はこの方法でできた」、その後、「2クラス、3クラスの学校に向けてどのように準備をすればよいか、大規模はどうすればよいか」を考えていきたいと思うので、ご理解いただきたい。

【中山部会長】

まずは第一歩ということで、進めていただきたい。

議題3（フッ化物洗口）については以上。

その他

【事務局】

第2回の歯科保健部会は現時点では開催予定はないが、開催の必要性が生じた場合は、ご連絡差し上げる。

3 閉会